

安田喜憲は語る

—地球の未来

2年B組

安田喜憲は、モアイが未来を語るとても面白い説明文を書いた(「モアイは語る—地球の未来」)。佐藤克文はペンギンにカメラを持たせて、潜水する様子を観察する説明文を書いた(「生物が記録する科学—バイオリギングの可能性」)。どちらも説明文だが、読みやすさに違いがある。私にとっては、「ペンギン」より「モアイ」のほうが読みやすいのだ。

では、両方の内容を比べてみよう。

まずはペンギン。佐藤克文氏は、エンペラーペンギンとアデリーペンギンにカメラなどがついた記録計をくっつけ、ペンギンが水中の中で何をしているのかを観察していた。そして、それから考えられる結論を書いていた。

次にモアイ。今までわかっているイースター島とその島の文化の発生と消滅は、地球全体でも起こりうることだという壮絶な説明文である。イースター島の住人たちは、森を切り崩してモアイを作り、森がなくなってから、戦争をしたりして、最終的に絶滅してしまったというイースター島の結末は、地球でも起こりうるというわけであると安田氏は説明している。

同じ説明文なのになぜこんなにも明確な違いが生まれているのか。これは、文章構成や結論の差だと考える。

ペンギンでは、意見を書いてある場所なのか、事実を書いてある場所なのか、私はわかりにくいところが多く、内容もしっかり理解できなくなってしまった。また、バイオリギングを使うことによって、私達が思考できる範囲を大きく広げてくれると言っているが、具体的にどんなことができる

のかということとは特に書かれてはいない。全体的に掴みどころがなく、私にとって理解しにくいいため、読みにくくなっていると考えられる。

だが、モアイでは一定の客観的なところからの意見があって、事実と根拠、そして意見がわかりやすく並べられている。また、安田氏は最後に地球の資源をできるだけ効率よく使わないと生き延びられないと語っている。これはモアイの話も根拠になっているし、何より対策がわかりやすい。これによってわかりやすく読みやすい説明文になっているのだ。

また、モアイはこれをしないとこうなっちゃうよというマイナスなことも読んでみたいということに関連していると考えられる。

例えば、「知っておくと儲かる技術」より「知らないで損する技術」のほうが、人々の興味が湧くということがある。内容は同じでも、損したくないという精神が働いて、「知らないで損する技術」の方を手にとってしまうのではないか。

モアイは、「資源を効率よく使う」ことをしないと生き延びられないよ」と語りかけているのである。だが、ペンギンは「バイオリギングをやると可能性が広がるよ」ということを言っている。先程の例のように、モアイをまた読みたくなってしまっても納得がいくだろうか。

つまり、このようなことから「生物が記録する科学ーバイオリギングの可能性」よりも「モアイは語るー地球の未来」のほうが「また読みたい」や「読んでみたい」と思わせる内容になっていると私は考える。

さあ、みなさんも資源を大事にして、イースター島みたいに絶滅しないようにしましょう！